

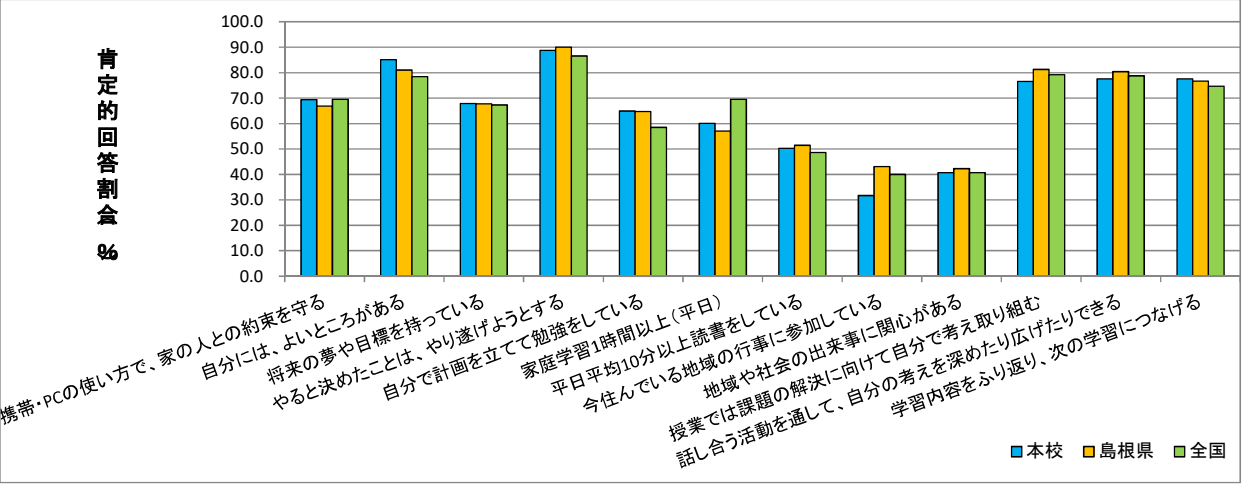
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○場面の展開や登場人物の心情の変化を描写を基に捉えることができる。また、文脈の中で語句の意味を捉えることもできる。 ○行書の特徴を理解するための確認テストが効果的であった。 ●必要な情報を選び、自分の考えを的確に表現する力が弱い。 ●表現技法名や文脈に即した漢字を書くことは苦手である。	・目的に応じて文章を読み、内容の解釈や自分の考えを広げることができるので、複数の情報から必要な情報を選んでまとめる学習や考えたことを知識や経験と結び付けて書く学習を行う。 ・正しく漢字を使い、短文を書く学習を継続的に行う。
数学	○数と式、図形、データの活用領域では、正答率が平均を上回っていた。また、数学の知識・技能についても平均以上の結果であった。 ○基本的な計算や選択問題は、正答率が高いため、数学の知識・技能は十分身に付いていると考えられる。 ●記述問題(証明など)については、無回答率が高いなど課題がある。 ●関数領域は正答率が低く、対策が必要。	・事象を数学的に捉え、数学的言語で説明できるように、授業の中で記述や説明をする場面を適宜設け、数学的な思考力、判断力、表現力を伸ばしていく。 ・関数領域では、式、表、グラフのそれぞれのよさを知り、問題解決のためにそれらを使うことで、関数の理解を深められるようにする。
理科	○問題によって、県平均・全国平均より正答率が高いものもある。 ●正答率は、4分野ともほぼ県平均・全国平均とほぼ同じではあるがやや低い。また、観点「知識・技能、思考・判断・表現」とも同じ傾向がある。これは、成績中位層のやや下位群が多いためである。	・生活に関連する内容を扱い、生徒の興味関心を高めて学習意欲につなげていく。 ・基礎学力の充実と科学的な思考を促す場面を適宜設定し、成績中位層の向上に努める。 ・1,2年生の内容を授業で適宜扱い、既習事項の振り返りに取り組んでいく。

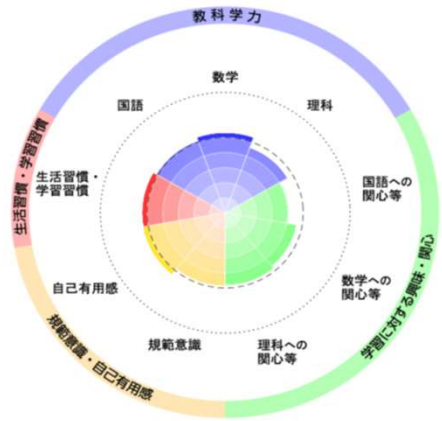
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自己肯定感・物事に挑戦する気持ち・やり遂げようとする意識は、県平均・全国平均より高い。 ●友人と協力して行う・困っている人に進んで声をかけることなどが県平均・全国平均より低く、友人関係が希薄な傾向が伺える。 ●平日1時間以上学習する生徒は、県平均より多いが全国平均より少ない。	・学校行事や総合的な学習を通して、自己効力感の育成にさらに努める。 ・県一の生徒数の多さが友人関係の希薄さの原因と考えられるが、道徳・特別活動・教科学習を通してグループ学習の充実と学級集団づくりに取り組む。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・各教科において、どのように考えたのか説明する活動を取り入れるなど、言語活動の充実を図る。
・ICT機器を活用しながら、「個別最適な学び」の実現に向けた授業改善に力を入れる。
・タブレットドリルを活用するなど家庭学習の充実を図る。

【受検者数】
267 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。